

松井さん

(新潟県長岡市中之島在住)



松井さんは自宅で水害を経験しました。刈谷田川の破堤箇所から約300mの地点、その恐怖と被害についてお話いただきました。

その日は朝から雨が降っていたのですが、いつもと変わらないと思いました。ところがテレビに「見附に避難命令」と表示されている。すぐに諏訪神社の裏の堤防に上ってみました。すると、既に堤防上から手を洗える高さまで水かさが増しているのではないですか。さらに下流の妙栄寺の方へ向かうと墓地を縫うように水が流れている様子が見えました。「家が危ない・・・！」急いで家へ戻りましたが、私が早いか水が早いかというくらい、あっという間に濁流が流れ込んできました。どうやら、私が家に戻っていた頃に堤防が切れたようです。



我が家は店を開いていたので、商品を2階へ揚げようとしたのですが、濁流は瞬く間に床上へと流れ込んできました。「位牌だけでも・・・。」仏壇から位牌を取り出したとき畳が浮き、同時に冷蔵庫が倒れました。そのうちに6尺戸(雨戸)6枚が水圧で「メリメリッ！」と音を立てながら倒れ、四方から濁流が流れ込んできました。必死になって階段までたどり着き、正気に戻り1階をのぞくと、泥水が1階天井付近まで溜まっていました。外を見回すと道路や庭は大河のように濁水が流れていました。

それからは避難することもできず、「せめて記録に残したい・・・」という想

いで写真を撮りました。庭先、道路、救助用のヘリコプター。いつもとあまりにも違いすぎる現実に言葉も出ませんでした。

夜になるにつれて、破堤箇所を照らすライトで空が明るく見えました。破堤箇所からは濁流が滝のように流れ、その「ゴオオオ」とう轟音、そして不安の中でとても眠ることはできませんでした。ただ、3:00頃には水が引き始め、消防団の方々が安否確認に来てくれました。近所の人たちもほとんど2階に逃げていました。

破堤から一夜明けると、泥とゴミの世界が広がっていました。新車は、車庫からシャッターを突き破って半分飛び出し、フロントガラスはポロポロ、中は泥が充満していました。周囲の様子を確認しようと歩き出したとき、深さ約 30cm のネバネバの泥に足をすくわれました。思わず手をつくると今度は手と足が抜けずに近所の人たちに助けられました。ふと見上げると壁に浸水の跡が付いていました。地面から 230cm。家に濁流が流れ込んできたとき、階段まで辿り着けなかったらと思うとゾッとします。

家や庭に溜まった泥やゴミを見ると、これからの片付けに気が遠くなりましたが、最初から水道が使える、数日後には電気が使えたことは助かり



濁流に呑み込まれた諏訪神社。(松井さん撮影)



玄関前の浸水跡。(松井さん撮影)。



流失した妙栄寺。ヘリコプターも見える。(松井さん撮影)

ました。最初の 3 日間は親戚に泊まりましたが、その後は自宅の 2 階で過ごしました。家から避難所まで遠く、自宅で過ごそうと決めたのも水道と電気が使えたからです。



泥出し・ゴミ出し作業は本当にきつかったです。家の中の泥出し作業は馴染みの大工さんに、庭の泥出し作業は造園屋に、それぞれお願いしました。家の構造や庭の形状がわかるためです。また、親戚や多くのボランティアの方々も手伝っていただきました。本当に感謝しています。

逆に残念なこともありました。軒先に置いていた買ったばかりの自転車や椅子が無くなったのです。盗まれたとは思いたくないですが、本当に残念でした。

1 階のタンスはほとんどダメにしました。泥を洗い流し無理に開けたのが悪かったようで、むしろ、ふやけている間は放っておいた方が良くと後から聞きました。金庫の中は泥だらけで書類やら印鑑やら何もわからない状態でした。

8 月の終わりには家のリフォームの目途が立ち、少し落ち着き始めた頃に、家屋移転の話が持ち上がりました。そして新居の壁塗が終わった直後の 10 月 23 日、新潟県中越地震が発生し全ての壁にひびが入りました。本当についていないと思いません。

水害と地震を比べると、恐怖心は地震の方が大きいです。前触れ無く突然揺れるから。ですが、災害後の片付けの苦労は比べものにならないほど水害の方が大きいです。

刈谷田川は昔から暴れ川だというのは知っていました。今でこそ川筋が真っ

直ぐですが昔は曲がりくねって流れていた、その証拠に刈谷田川の両岸には見附市と旧中之島町の飛び地が多く残っています。また、「妙栄寺の裏が切れると中之島全域が水に浸かる」という言い伝えを聞いたこともありますが、まさか本当に切れるとは思いませんでした。

水害後は、何でも高いところに置く癖がつかしました。特に普段から必要としない絵画や掛け軸は必ず2階に置くようになりました。

もし1日前に戻れるならば、洪水の情報等を入手していたと思います。洪水の情報があれば多くの商品や家財を移動できたことでしょう。また、もう少し早い段階で都市計画の情報がほしかったです。都市計画の情報があれば移転前にリフォームする必要もなかったことでしょう。もっとも行政側も手一杯であったろうから無理は言えませんが、これを今後の教訓にしてほしいと願うばかりです。

それにしても命があって良かった・・・。